

民主島根

2021年
1.3
第1375号

発行所 松江市袖師町3-6 TEL 0852-24-2444
日本共産党島根県委員会 FAX 0852-24-6369

大平前衆議院議員 勝利と野党共闘の前進へ 「野党連合政権」実現する年に 菅政権終わらせ、新しい政治を

衆議院の任期満了まで10カ月。いよいよ日本の命運がかかった総選挙が必ず行われる年を迎えました。発足から3カ月になる菅政権は、違憲・違法の日本学術会議への人事介入や「自己責任」の押し付け、デマとフェイクで批判者を攻撃するなど、安倍政権を上回る危険性が明らかになるとともに、政権担当能力を欠く姿が露呈しました。どのような強権とゴマカシを弄しても菅政権と国民との矛盾は広がらざるを得ません。次の総選挙で市民と野党の共闘の力と日本共産党の躍進で、菅自公政権を倒し、政権交代を勝ち取り、「野党連合政権」で新しい政治をつくる年にしましょう。

謹賀新年



飛来する国の特別天然記念物・コウノトリ (雲南市)

政権奪取、議席奪還の年に 大平よしののぶ

前衆議院議員



議席を失ってから3年、中国地方全107自治体すべてに足を運びました。各地で暮らす皆さんの表情にふれ、息遣いも感じながら、地方の未来からこの国のあるべき姿、時には地球の持続可能性についてまで大いに語り合ってきました。「ウソだらけ、金まみれの汚れた政治はもう変えよう」との声が広がり、「自己責任の押しつけに

もう黙っていられない」と、かつてない行動が起ころっている——昨年、各地に足を運び直接つかんできた最大の確信です。民青同盟がとりくんでいる学生や若者たちへの食糧支援活動には大きな

注目が寄せられ、当事者の学生たち自身が署名を集め、大学や文部科学省へ正面から学費値下げと緊急支援策を求めています。「性暴力は許さない」と各地でフラワーデモが行われ、選択的夫婦別姓を求めるたたかいが広がり、政治を動かしてきました。被爆者の訴えと市民社

会のとりにくみが国際政治を後押しし、核兵器禁止条約の発効が決定。巨大な流れは誰も止めることはできません。いよいよ総選挙。政権奪取と議席奪還へ決戦の年の始まりです。最後に一首で決意表明。「駆け上がる やり残してきたあの議場 43歳 あなたとともに」。

困っている人にやさしい政治に むこせ慎一

衆院2区予定候補



菅内閣が誕生し3か月余り。自民党が議員投票、国会議員投票で「この人が最善」と選んだ自民党総裁からの内閣総理大臣です。

記者会見、国会答弁、新型コロナウイルス対応の右往左往に「本当に大丈夫か」「総理の認識」を問われてもカンペが出来るまでも答弁せず、内容を理解しないまま棒読みを読み違ひ。答弁二転三転、ウソの綱渡り。科学軽視の政治姿勢も、日本学術会議の任命拒否が象徴的ですが、人権意識の世界的変化、新

型コロナ感染抑制、原発エネルギー問題等でも世界に遅れ。自民党が社会進歩の極端(しつこく)、歴史の遺物に。やってくる感ゴマカシ政治に未来はありません。市民と野党の共闘発展で政権交代を実現し、「何でも自己責任、官から民へ」から「困っている人にやさしい政治」にきりかえるのが目標です。比例の空白克服と小選挙区勝利に奮闘します。ともに力を合わせましょう。

安倍菅政治から脱け出そう 仁比聡平

前参議院議員



コロナに豪雨災害、生活不安。大変な一年でした。せめて穏やかな新年を迎えられるよう心から願っています。

専門家の警鐘にもかかわらずコロナ感染の「第三波」。この期に及んで無責任に「静かなマスク会食」と号令するだけで、GOTO事業も一時停止するだけで、どこまでも自己責任と大企業・富裕層優遇の新自由主義に暴走する菅政権に怒りを禁じえません。「補償なき自粛」への逆戻りを許さず、

消費税減税など生活防衛に踏み出す時です。本音で説明し、議論できないからこそ「お答えは差し控える」と権力者は。菅首相の情けない姿はすっかり露わになりました。解散・総選挙の激動の年。何としても安倍菅政治から脱け出しましょう。「比例は共産党」を広げに広げて、大平よしののぶさんを国会に送り、野党連合政権を実現し、力を尽くします。

鼓動

混沌迷の日々が続く、本来であれば新年初めの祝賀ムードを醸す行事の一つである成人式も各地で延期や中止に追い込まれた。それでもやはり、ミレニアム生まれの子どもたちが新成人となることを喜びたいと思う▼彼らがこの日を迎えるまでの20年間を振り返ると感慨深いものがある。別名「Z世代」とも呼ばれる彼らは、生まれた時からインターネットが当たり前のデジタルネイティブ世代。ネット社会を生き抜く力は巧みで、そこには世代間格差を感じざるを得ない▼先日、Z世代を特集した番組を視聴した。ネットを駆使した発信力は想定内だったが、その背後にある語彙量とイマジネーションの豊かさには目を見張るものがあった。若者の活字離れを嘆く話題が多い中、彼らは広く読書し、自分の頭で考え、他者と交流し世界に対峙していた。番組で取り上げられていたのは一部は突出したメンバーなのかもしれないが、その世代しか持ちえないエネルギーを感じた▼この間、国のトップの発する言葉の薄さに失望し続けてきたが、語彙の不足が原因ではないか。語彙量は、イマジネーションや感性の豊かさにも繋がるものであり、思考する上で必要な語彙を十分に持ち得ていなければ、たとえ目の前に窮している国民がいても、その心に響く言葉は出ようはずもない▼今後、Z世代を含め、若い世代がどのような時代を作っていくかは未知数だが、これから彼らが獲得していく「言葉」にも期待したい。と同時に、見守る我々世代も自身の言葉の森を豊かにし、若い世代と共に鳴り合っている困難を乗り越える力を鍛えていきたいと、新しい年に思う。(江)